

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0871600128
法人名	社会福祉法人 尚生会
事業所名	認知症高齢者グループホームかさまグリーンハウス
所在地 (電話番号)	茨城県笠間市福田3199 (電話)0296-72-8138

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(19年10月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.6 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造 平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(10月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 73 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 誠芳会 石本病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺を見渡せば一面に見渡せる田畑、遠くにそびえる山、季節と共に日々を過ごせる自然に囲まれ、実に風光明媚な立地条件に恵まれている。常にホーム内外から、心があらわれるような良い眺めを堪能することができる。ホームの隣には、同法人が経営する介護老人福祉施設が設置されており、日常生活支援のさまざまな場面で、機能的に相互連携が図られている。また、地域住民に広く周知され、時には野菜の差仕入れをいただけるなど、地域に密着したホームとしての軌跡を着実に歩んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の報告書は全職員が目通しをしている。その上で、会議や運営推進会議等における議題にあわせて、具体的な福祉サービスの質の向上に結びつける素材として用いている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>近々に大きな人事異動があったため、今回の自己評価に取り組む上での議論や検討を行うための、人的時間的余裕が充足していたとは言いがたい。しかしながら、極めて真摯に自己評価に取り組み、情熱を持ってホームにおける福祉サービスの質の向上に努めている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の議題に外部評価の結果をあげ、具体的な福祉サービスの質の向上に結びつける素材として用いている。運営推進会議は隔月で実施されており、議事録も非常に丁寧に整理されている。会議の内容は、事業計画書に明確に明記されているので計画的長期的な視点に基づくものである。意欲的に市町村と連携をとっている。重要な内容に関しては、ホーム側から市町村に出向いて直接やり取りを行なっている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>さまざまな利用者の生活の様子、預かり金の管理状況等、定期的に電話、口頭などによって家族等への報告がなされている。家族の方に安心していただけるような配慮がなされている。また、苦情解決体制が整備され、その案内等はホーム内に掲示され、利用者およびご家族に案内されている。玄関先に意見箱が設置され、気兼ねなく意見や要望を言っていただけける仕組みが整っている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小中学校の運動会への参加や、公民館行事への参加を積極的に行っている。ホーム主催の夏祭り等には地域の方々をお招きして、時には近隣の方の手作り野菜の差入れを頂くなど、ほのぼのとした近所付き合いが図られている。また、近所の子供たちは、ホームに親しみをもってくれ、自由に出入りしてくれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者やご家族の方にわかりやすい理念を掲げ、ホームの玄関先等に設置している。また、現在の理念の内容に満足することなく、更なる吟味、検討を行なって、よりよいものにしていく姿勢が顕著にみられる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員は、理念に関する資料として事業計画書を手渡されている。また、法人全体の研修や、定例会議等において、理念の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小中学校の運動会への参加や、公民館行事への参加を積極的に行っている。ホーム主催の夏祭り等には地域の方々をお招きして、時には近隣の方の手作り野菜の差し入れを頂くなど、ほのぼのとした近所付き合いが図られている。また、近所の子供たちは、ホームに親しみをもってくれ、自由に出入りしてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の報告書は全職員が目通しをしている。その上で、会議や運営推進会議等における議題にあげて、具体的な福祉サービスの質の向上に結びつける素材として用いている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月で実施されており、議事録も非常に丁寧に整理されている。会議の内容は、事業計画書に明確に明記されているので計画的長期的な視点に基づくものである。		

茨城県 グループホームかさまグリーンハウス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>意欲的に市町村と連携をとっている。重要な内容に関しては、ホーム側から市町村に出向いて直接やり取りを行なっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>さまざまな利用者の生活の様子、預かり金の管理状況等、定期的に手紙や電話、口頭などによって家族等への報告がなされている。家族の方に安心していただけるような配慮がなされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情解決体制が整備され、その案内等はホーム内に掲示され、利用者およびご家族に案内されている。また、玄関先に意見箱が設置され、気兼ねなく意見や要望を言っただけの仕組みが整っている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等が生じた場合は、利用者ひとりひとりに不安や心配を与えたり、不穏の種とならぬよう丁寧な説明と挨拶、また事前研修により利用者に慣れて頂けるよう配慮したり、送別会等を実施している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修が実施され、職員を育てる体制が整っている。また、それ以外にも職員に対する様々な研修情報が提供され、自発的な自己啓発の支援も行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人系列のグループホームとの交流を中心に、関連する福祉サービス事業所との交流および連携が積極的に図られている。職員交換研修などにより、職員の質の向上が図られている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者およびご家族が両方とも納得して、安心してホームの利用ができるように、また利用し続けられるように努めている。具体的には新規利用希望者には体験入所をおすすめしたり、ホーム側からさまざまな情報を定期的に発信したりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ひとりひとりのやりたいこと、できることに焦点をあて、共に認め合える雰囲気づくりを支援しながら、共に取り組んでいけるような関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ひとりひとりと利用者の、1対1のかかわりから見出された思いや意向と、職員全体で収集したものを総合的に把握している。特に、意思疎通が難しい方(自分から言えない人)に対して丁寧にその方の思いをとらえようと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者およびご家族から意見や要望を聴取し、また職員間で十分な検討を重ねて、利用者を主体とした生活の営みを支援できるようなケアプランの策定に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、月1のサービス担当者会議において逐次、全職員で行なっている。そのサービス担当者会議では十分な議論ができなかった場合は、職員会議を活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している同法人の老人福祉施設において実施されているお茶や生花教室に、ホームの利用者も参加している。また、県外のホームとの交流が行なわれており、利用者は小旅行気分に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1の頻度で、定期的にかかりつけ医への受診支援(付き添い)を行っている。それ以外の病院等への受診の際も、初回は職員が付き添って、家族の負担軽減を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点において、今度、ホームで利用者の重度化や終末期における対応をどのようにするか指針を検討中である。	○	ホームとしては今後、利用者の重度化や終末期対応を行なっていこうという方向性を持っている。そのために必要な体制の整備が、速やかに推し進められることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方々のさまざまな個人情報、職員の声かけ、トイレや入浴などの生活場面でのプライバシーの確保は徹底されている。職員はホームの理念に基づいて、具体的なプライバシー確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の意向を尊重した対応に心掛け、利用者もゆったりと自分のペースの中で生活を送っていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をする際のテーブルの配置、座席、BGM等について、利用者一人ひとりが食事を楽しめるよう、十分な配慮がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には利用者の自由で入浴を楽しむこと出来る。事実上、午後からの入浴が通例となっているが、入浴時間やその順番については丁寧な話し合いと説明がなされているので利用者の方々も皆納得して利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	詩吟、お茶、絵画、生け花といった趣味・生きがい支援や、食事の盛り付けや配膳、洗濯物たたみといった日常生活の役割分担等、さまざまな支援が行われている。利用者一人ひとりにあった活動を見出し、いつまでも現役でいられような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買出し、頻繁に行なわれるドライブ、お弁当を持参してのハイキング等、日常的な外出支援は充実している。外出行事実施記録を整備し、時には利用者職員1対1での外出形態もとられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間のみ施錠管理をしている。日中は利用者の方々には自由に行き来できる生活環境にある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単体ではなく、法人全体で災害対策に取り組んでいる。消防・避難訓練各種および災害時対応マニュアルの整備、緊急時用備蓄等、有機的な法人内事業所の連携が考案されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接している同法人内の管理栄養士の協力のもと、利用者ひとりひとりの食事量や栄養バランス、水分量の把握および管理が行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある家具やインテリア、あるいはぬくもりのある手作り品を巧みに用いて、居心地のよい共有空間づくりがなされている。採光や色調も計算し、生活感や季節感を取り入れる工夫もこらしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの生活歴や嗜好、希望に即した個別の居室づくりがなされている。利用者自身やご家族の希望を取り入れ、また、職員間で十分に検討を行なっている。		